

行政視察報告書

令和6年 7月15日

長浜市議会議長 高山亨様

長浜市議会議員 岩川信子

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 令和6年度恵風会会派行政視察研修
2. 視察期間 令和6年7月8日～9日
3. 視察場所及び目的
 - ①備北メディカルネットワーク・広島県三次医療センター
「地域医療連携推進法人について」
 - ②香川県三豊市・みとよ市民病院
「市民病院の新築移転について」
 - ③兵庫県淡路島市・のじまスコーラ
「閉校後の施設利用について」

4. 調査内容感想等

・視察の目的

① 人口減少と少子高齢化の進行に伴い、地域医療の取り巻く環境が厳しさを増す中、持続可能な地域医療提供体制を確保するために、社会の変化に応じてこれらの病院のあり方を求められている。地域をみつめ、限られた医療資源を最大に活用し、どのように対応しているのか、病院間の役割分担と連携強化を進め、地域医療を守り支える事が必要になる、そこで医療提携確保について伺う

② 老朽化が激しく、耐震性にも問題を生じて病院建物や、医師や看護師など医療人材が深刻で病院収益を悪化している病院自治体の縮小均衡、最終的には消滅のサイクルに入っている病院も多い中、市立永康病院もその一つであった、そこで、みとよ市民病院として建て替えられたそれまでの計画、完全個室化までの取組みについて伺う

③ 閉校した施設を利用した淡路島、全国的に各市町村では人口減少、過疎地域が進むなか地域産業、地元との連携を深めていきながらいかに経済発展や、観光地として発展につなげるか伺う

・視察の内容

① 地域医療連携法人・備北メヂカルネットワークは、広島県備北2次医療圏における急性期医療を担う4病院が緩やかに連携し、へき地における医師確保を大命題として、さまざまな取組みを行っている。
また参加法人として

・三次市：市立三次中央病院 ・庄原市：庄原市立西城市民病院 ・一般社団法人三次地区医師会：三次医療センター ・日本赤十字社：庄原赤十字病院の構成され連携強化した診療支援をしている。

病院等相互間の機能分担及び連携に関する事項及び目標として、

(1) 医療従事者の確保・育成する仕組みづくり

中山間地域において安定的に医療サービスを提供するために、地域全体で医療従事者を確保・育成する仕組みを構築する

(2) 地域包括ケアの推進

医療、介護、介護予防、住まい、生活支援のサービスを包括的に提供できる地域包括ケアシステムの構築に向けた地域の取組みを支援する。

(3) 共同購買の仕組みづくり

医薬品、診療材料、医療機器などの購買に際して、参加病院が共同で価格交渉を行う

ことにより、スケールメリットを活かしたコスト削減を図る。

(4) 共同研修の仕組みについて

各病院が実施している各種研修（接遇・医療安全・クレーム対策等）を参加病院
共同で実施することにより、研修効果の向上、受講機会の拡大、経費の削減、業務量
の軽減を図る

このように取組みは医療従事者、医師の活躍支援へと取り組んでいる

② 香川県三豊市立みとよ市民病院としてあらたに令和4年5月開院

診療科：内科・外科・整形外科・リハビリテーション科、耳鼻咽喉科、精神科、心療
内科、泌尿器科、眼科、小児科、脳神経外科の122床で一般病棟46床（個室39室）
医療療養病棟46床（個室42室）精神病棟30床（個室22室）と総事業費40億円（
消費税別）以内、ECI方式（建設でコスト縮減や、工期短縮を目的とした方式）で
行う。

城西大学経営学部マネジメント総合学科教授・伊関友伸氏に総合政策アドバイザーを
委託されていた。個室化にあたり、教授からの提言もあり、市長方針を決定し特別
委員会でも病室構成に反対はなかった。個室化することにより、患者や家族のプライ
バシーが守られ、感染拡大リスクが回避された。個室により高齢者の転倒防止には、
転倒ブザーやセンサー付きベッド、転倒防止マットの導入をし、転倒転落防止策に
努め配慮されている。また患者さんには病室から景色を見ることができ、外周側に個室
中央にスタッフステーションを配置されている。

完全個室の診療報酬請求と個人負担については、現在では差額ベッド代は請求して

いないが、今後経営改善のため公立病院経営強化プランの中で、差額ベッド代の徴収を検討されているとのこと。(特別加算対象ではないので診療報酬請求はなし)

医師不足の対策については、香川県医学生修学支援貸付者(地域枠)の配置を県、大学を通じて依頼し、R5年から継続的に配置を受けている。

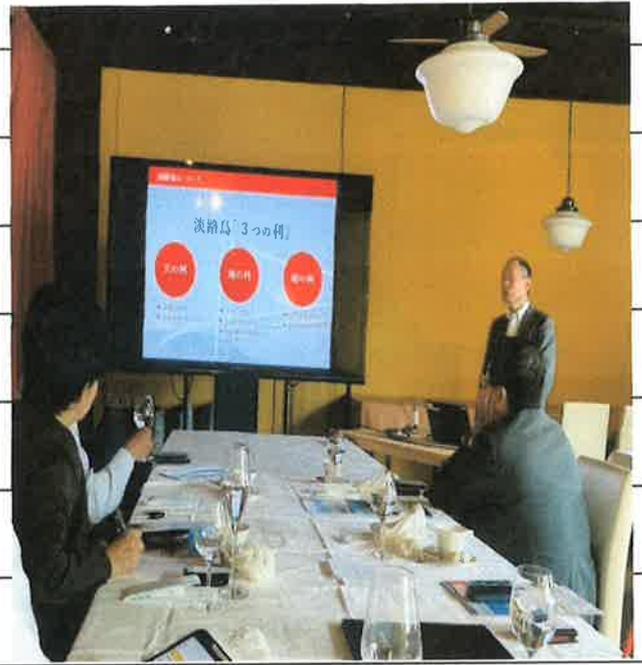


③ 淡路島市

住民・地域団体・事業者・行政が、共に理想の淡路島をつくるための道しるべ、となる新しい地域ビジョンを策定し、ビジョンの基本理念には淡路島で暮らす人々とその暮らしを支えてきた自然の良質な関係が“環”となって広がり、誰もが安心して、暮らし続けられる環境豊かにしよう、という思いが込められていた。

閉校となった小学校の施設利用をリノベーションし、レストランやマルシェなど

行っている。



・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

① 医師の働き方改革もこの4月から始まっている、国が上限とする時間外労働時間、年1860時間を超えてしまうことのないよう、少ない医療資源でなくてはならない診療科を地域で維持していく為の一つの方法として、地域医療連携法人は医療機関がネットワークを形成して役割分担を明確化することで、より多くの患者さんにスムーズな医療を提供できるようになり、また医師の集約化、診療の重点化によってさらに地域の医療レベルは向上する。また経営再編には、まだまだ時間がかかるので、切れ目のない医療の提供するためにも是非、地域医療連携法人も検討に入れるべきと考える。

② 長浜市立湖北病院の老朽化も進み、建て替えも喫緊の課題である為、120床の個室化を市当局へ過疎債を使って建て替えの要望を何度もしている。

みとよ病院を視察し、感染症のリスクに配慮された理想的な病院であると改めて思い、
現在、長浜市立湖北病院は水漏れなどで衛生面においても市民の命に関わる医療現場が
手術も行われづらい環境になっている。

しっかり目を向けて、「経営形態とは別に建て替える」と言った市長の発言を信じて、
待っている市民の為にも、材料も高騰化しつづけているので、再度早急に建て替えの
必要を強く要望する。

③ 閉校の小学校をリノベーションし、マルシェやレストランを経営されている点や
校庭を用いてテラスでBBQなど工夫を参考に、長浜市としても地元の食材を使った
レストラン、校庭などを利用して地域の発展に繋がる催しなど開催できるのはと感じて
いる。